# 安全データシート

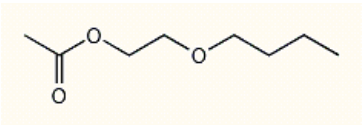
作成日　2019 年 5 月 31 日
改訂日　2026 年 11 月 12 日

| 1. 化学品及び会社情報 | |
|---|---|
| 製品名 | EBAC/ブチセロアセ |
| 化学品の名称 | エチレングリコールモノブチルエーテルアセタート<br>（Ethylene glycol monobutyl ether acetate） |
| 供給者の会社名称 | アーク株式会社 |
| 住所 | 大阪市中央区安土町 3-5-13 |
| 電話番号 | 06-6563-7710 |
| FAX 番号 | 06-6563-7720 |
| 緊急連絡電話番号 | 06-6563-7710 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 推奨用途：溶剤（塗料、インキ、接着剤等） |

| 2. 危険有害性の要約 | |
|---|---|
| GHS 分類 | JIS Z 7252:2025 に基づく分類 |
| 物理化学的危険性 | 引火性液体：区分 4<br>上記以外の物理化学的危険性：区分に該当しない又は分類できない |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性（経皮）：区分 4<br>特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 1（中枢神経系、血液系、腎臓）<br>特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 2（血液系、腎臓）<br>上記以外の健康に対する有害性：区分に該当しない又は分類できない |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性 短期（急性）：区分 3<br>水生環境有害性 長期（慢性）：区分 3<br>オゾン層への有害性：分類できない |
| **GHS ラベル要素** | |
| 絵表示 |  |
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | H227　可燃性液体<br>H312　皮膚に接触すると有害<br>H370　中枢神経系、血液系、腎臓の障害<br>H373　長期にわたる、又は反復ばく露による血液系、腎臓の障害のおそれ<br>H402　水生生物に有害<br>H412　長期継続的影響によって水生生物に有害 |
| 注意書き【安全対策】 | P210　熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。<br>P260　蒸気／ミスト／スプレーを吸入しないこと。<br>P264　取扱い後は手をよく洗うこと。<br>P270　この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。<br>P273　環境への放出を避けること。<br>P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 |

| | |
|---|---|
| 注意書き【応急措置】 | P302+P352　皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。<br>P308+P316　ばく露又はばく露の懸念がある場合：直ちに救急の医療処置を受けること。<br>P317　医療処置を受けること。<br>P319　気分が悪いときは、医療処置を受けること。<br>P321　特別な処置が必要である（第 4 項を参照）。<br>P362+P364　汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。<br>P370+P378　火災の場合：消火するために泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素又は乾燥砂を使用すること。 |
| 注意書き【保管】 | P403+P235　換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。<br>P405　施錠して保管すること。 |
| 注意書き【廃棄】 | P501　内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。 |
| GHS 分類に該当しない他の危険有害性 | 空気との接触により、爆発性の過酸化物を生成するおそれがある。 |

## 3. 組成及び成分情報

| | |
|---|---|
| 化学物質・混合物の区別 | 単一製品 |
| 化学名又は一般名 | エチレングリコールモノブチルエーテルアセタート |
| 別名 | 酢酸 n-ブチルセロソルブ、ブチルセロソルブアセタート（Butyl cellosolve acetate）、エクタソルブ EB アセタート（Ektasolve EB acetate）、2-ブトキシエチルアセタート（2-Butoxyethyl acetate）、EGBEA |
| 化学特性<br>（示性式又は構造式） |  |

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 分子式<br>（分子量） | CAS 番号 | 化審法官報公示整理番号 | 安衛法（官報）公示整理番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| エチレングリコールモノブチルエーテルアセタート | ≧99.0% | C8H1603<br>(160.21) | 112-07-2 | 2-740 | 公表化学物質 |

| | |
|---|---|
| 分類に寄与する不純物及び安定化添加物 | データなし |

## 4. 応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。<br>気分が悪いときは、医療処置を受けること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 汚染された衣類を全て脱ぐこと。<br>多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。<br>汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。<br>気分が悪いときは、医療処置を受けること。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗うこと。<br>眼の刺激が続く場合は、医療処置を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。<br>気分が悪いときは、医療処置を受けること。 |
| ばく露又はばく露の懸念がある場合 | 直ちに救急の医療処置を受けること。 |

| | |
|---|---|
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | 吸入：咳、頭痛、めまい、し眠、吐き気。<br>皮膚：吸収される可能性あり。発赤、皮膚の乾燥。<br>眼：発赤。<br>経口摂取：のどと胸部の灼熱感、嘔吐。他の症状については「吸入」参照。 |
| 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 | 救助者は状況に応じて適切な保護具（有機ガス用防毒マスク、不浸透性の保護手袋、保護眼鏡等）を着用すること。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | 情報なし |

## 5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 適切な消火剤 | 泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂類 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状注水 |
| 火災時の特有の危険有害性 | 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。<br>激しく加熱すると燃焼する。<br>火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。<br>71℃以上では、蒸気／空気の爆発性混合気体を生じることがある。 |
| 特有の消火方法 | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。<br>容器が熱に晒されているときは、移さない。<br>安全に対処できるならば着火源を除去すること。<br>消火活動は風上から行う。<br>火災場所の周辺には関係者以外の立入りを規制する。 |
| 消火を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。 |

## 6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 全ての着火源を取り除く。<br>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏出区域として隔離する。<br>関係者以外の立入りを禁止する。<br>作業者は適切な保護具（第 8 項参照）を着用し、眼、皮膚への接触や蒸気の吸入を避ける。<br>密閉された場所に立ち入る前に換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | 環境中に放出してはならない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 危険でなければ漏れを止める。<br>不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 |
| 二次災害の防止策 | すべての着火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。<br>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

**取扱い**

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 第 8 項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。<br>71℃以上では、密閉系及び換気。 |
| 安全取扱注意事項 | 使用前に取扱説明書を入手すること。<br>すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。<br>眼、皮膚、衣類に付けないこと。皮膚から吸収されるおそれがあるため、不浸透性の保護手袋等を着用すること。 |

| | |
|---|---|
| | 蒸気／ミスト／スプレーを吸入しないこと。<br>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。<br>取扱い後は手をよく洗うこと。<br>環境への放出を避けること。 |
| 接触回避 | 第 10 項を参照。 |
| 衛生対策 | 取扱い後は手をよく洗うこと。<br>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 |
| **保管** | |
| 安全な保管条件 | 強酸化剤から離しておくこと。<br>強塩基から離しておくこと。<br>炎及び熱表面から離して保管すること。<br>冷所、換気の良い場所で保管すること。<br>暗所に保管すること。<br>施錠して保管すること。<br>消防法の規定に従って保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | 消防法で規定されている容器を使用する。 |

## 8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|---|---|
| 管理濃度 | 設定されていない |
| 濃度基準値 | 八時間濃度基準値：20 ppm |
| 許容濃度 | 日本産業衛生学会：設定されていない<br>ACGIH：TLV-TWA 20 ppm |
| 設備対策 | ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置し、作業場の濃度を濃度基準値以下に保つこと。<br>この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 |
| **保護具** | |
| 呼吸用保護具 | 有機ガス用防毒マスク（高濃度の場合は送気マスク等） |
| 手の保護具 | 不浸透性の保護手袋（耐透過性のある材質のものを選定すること） |
| 眼、顔面の保護具 | 保護眼鏡（側板付き又はゴーグル型）。状況に応じて保護面。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 不浸透性の保護衣。状況に応じて保護長靴。 |

## 9. 物理的及び化学的性質

| **物理的状態** | |
|---|---|
| 形状 | 液体（20℃，1 気圧）（GHS 判定） |
| 色 | 無色（ICSC（2003）） |
| 臭い | 特徴的な臭い（ICSC（2003）） |
| 臭いのしきい（閾）値 | 0.1 ppm（検知）0.35～0.48 ppm（認知）（OSHA（2015）） |
| ｐＨ | 4（20 ℃，10 g/L）（GESTIS（2015）） |
| 融点・凝固点 | -64 ℃（ICSC（2003）） |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 192 ℃（ICSC（2003）） |
| 引火点 | 71 ℃（密閉式）（ICSC（2003）） |
| 蒸発速度（酢酸ブチル＝１） | データなし |

| | |
|---|---|
| 燃焼性（固体、気体） | データなし |
| 燃焼又は爆発範囲 | 0.9（93 ℃）～ 8.5（135℃）vol%（空気中）（ICSC（2003）） |
| 蒸気圧 | 31 Pa（20℃）（ICSC（2003）） |
| 蒸気密度 | 相対蒸気密度（空気=1）：5.5<br>20 ℃での蒸気/空気混合気体の相対密度（空気=1）：1.00（ICSC（2003）） |
| 比重（相対密度） | 0.9422（20 ℃ /20 ℃）（HSDB（2015）） |
| 溶解度 | 水：1.7 g/100 mL（20° C）（ICSC（2003））<br>炭化水素、有機溶媒：可溶（HSDB（2015）） |
| n-オクタノール／水分配係数 | log Pow= 1.51（ICSC（2003）） |
| 自然発火温度 | 340 ℃（ICSC（2003）） |
| 分解温度 | データなし |
| 粘度（粘性率） | 1.8 mPa.s（EU-RAR（2006）） |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性 | 可燃性である。<br>空気との接触により過酸化物を生じる。爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。<br>強力な酸化剤、強塩基と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 |
| 化学的安定性 | わずかに水に溶ける。<br>わずかに揮発する。<br>加熱により分解する。<br>光分解性がある。 |
| 危険有害反応可能性 | 引火点付近での加熱時、空気と蒸気の混合物は爆発性を有する。<br>爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。<br>強力な酸化剤、強塩基と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 |
| 避けるべき条件 | 加熱、高温、火花、裸火等の着火源、直射日光 |
| 混触危険物質 | 強力な酸化剤、強塩基<br>アルミニウム、酸化物と激しく反応する。 |
| 危険有害な分解生成物 | 加熱による分解で刺激性の蒸気及び水素を生じる。 |

## 11. 有害性情報

| | |
|---|---|
| 急性毒性 | 経口：ラットの LD50 値として、2,350 mg/kg（EU-RAR（2006））、3,000 mg/kg（雄）、2,400 mg/kg（雌）（EU-RAR（2006）、SIDS（2006）、ACGIH（7th, 2003）、ATSDR（1998）、ECETOC TR 64（1995）、DFGOT vol. 6（1994））、7,000 mg/kg（EU-RAR（2006）、ACGIH（7th, 2003））との報告に基づき、区分に該当しないとした。<br>経皮：ウサギの LD50 値として、1,485 mg/kg（EU-RAR（2006）、ACGIH（7th, 2003））、1,500 mg/kg（EU-RAR（2006）、SIDS（2006）、ACGIH（7th, 2003）、ATSDR（1998）、ECETOC TR 64（1995）、DFGOT vol. 6（1994））との報告に基づき、区分 4 とした。<br>吸入（ガス）：GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。<br>吸入（蒸気）：データ不足のため分類できない。ラットに本物質を飽和蒸気圧濃度（約 400 ppm）で 4 時間吸入させた結果、毒性影響がなかったとの報告（EU-RAR（2006）、SIDS（2006）、ACGIH（7th, 2003））があるが、このデータから区分を特定できない。<br>吸入（粉じん及びミスト）：データ不足のため分類できない。 |

| | |
|---|---|
| 皮膚腐食性／刺激性 | ウサギを用いたドレイズ試験において、6 例中 4 例にわずかな刺激性が認められ、皮膚一次刺激指数 0.17 であったとの報告がある（SIDS（2006）、EU-RAR（2006）、ATSDR（1998）、ECETOC TR 64（1995））。その他、ウサギを用いた試験で刺激性なし又は軽度の刺激性との報告が複数ある一方、未希釈の本物質 0.5 mL を 4 時間閉塞適用した結果、中等度の発赤がみられたとの報告がある（EU-RAR（2006）、ECETOC TR 64（1995））。ボランティア 8 人への 48 時間適用試験では軽度の刺激性と報告されている（EU-RAR（2006））。以上の結果から、区分に該当しないとした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | ウサギを用いた眼刺激性試験において、刺激スコアは 0.67 であり軽度の結膜発赤及び分泌物がみられたが 48 時間以内に回復した（SIDS（2006）、ATSDR（1998）、DFGOT vol. 6（1994）、ECETOC TR 64（1995））。他の試験においても軽度の発赤及び浮腫がみられたが一時間後に回復したとの報告がある（EU-RAR（2006））。以上の結果から、区分に該当しないとした。 |
| 呼吸器感作性 | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | モルモットを用いたビューラー試験（GLP 適合）において、本物質（99.1 %）による皮膚反応はみられなかったとの報告がある（EU-RAR（2006）、ATSDR（1998））。また、代謝物であるエチレングリコールモノブチルエーテルについて、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験で感作性はみられなかったとの報告がある（SIDS（2006））。以上の結果から、区分に該当しないとした。 |
| 生殖細胞変異原性 | データ不足のため分類できない。本物質のデータはないが、関連物質であるエチレングリコールモノブチルエーテルについては、in vivo の小核試験及び DNA 損傷試験でいずれも陰性であり、in vitro では遺伝子突然変異試験及び姉妹染色分体交換試験で高用量でのみ陽性結果が認められたが、その他の試験ではいずれも陰性である（EU-RAR（2006）、SIDS（2006））。 |
| 発がん性 | 本物質自体の発がん性試験報告はない。本物質は生体内でエチレングリコールモノブチルエーテル（EGBE）に代謝される（SIDS（2006）、EU-RAR（2006））。EGBE について、マウスで肝臓の血管肉腫及び前胃の腫瘍の発生率増加が報告されているが、ラットでは認められておらず、ヒトには当てはまらない作用機序と考えられている（EU-RAR（2006）、IARC vol. 88（2006））。ACGIH は本物質を A3、IARC は EGBE をグループ 3 に分類している。ヒトでの疫学知見がないことから、分類できないとした。 |
| 生殖毒性 | 本物質自体の生殖毒性に関する情報はない。代謝物である EGBE について、マウスの連続交配試験で限度量を超える高用量において妊娠腹数及び同腹生存児数の減少等が、ラット及びウサギの吸入ばく露による発生毒性試験で母動物毒性のみられる用量において骨格変異の頻度増加や着床胎児数の減少がみられたとの報告がある（SIDS（2006）、ACGIH（7th, 2003））。本物質の直接的な試験結果ではないことから、分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分 1（中枢神経系、血液系、腎臓）<br>本物質の代謝物である EGBE を含む製品のヒト誤飲事例で、中枢神経抑制、代謝性アシドーシス、血尿、赤血球数減少、ヘモグロビンの減少がみられている（SIDS（2006）、ATSDR（1998））。実験動物では、本物質の経口、吸入、経皮投与により、活動低下、協調運動失調、振戦等の中枢神経系への影響、ヘモグロビン尿、溶血、貧血等の血液系への影響、血尿、腎臓の肉眼的変化等の腎臓への影響が区分 1 相当の用量でみられている（SIDS（2006）、ATSDR（1998）、ACGIH（7th, 2003）、EU-RAR（2006）、DFGOT vol. 6（1994））。アルコキシエタノールの酢酸エステルは生体内で容易に加水分解されるため、EGBE のヒトデータも採用した（産衛学会 生物学的許容値の暫定値（2008））。以上より、区分 1（中枢神経系、血液系、腎臓）とした。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 区分 2（血液系、腎臓）<br>ヒトに関する情報はない。ラット及びウサギを用いた 1 ヶ月間又は 4 週間吸入毒性試験において、340～400 ppm（ガイダンス値換算: 0.39～0.49 mg/L）でヘモグ |

| | |
|---|---|
| | ロビン尿、血尿、溶血性貧血、赤血球数・ヘマトクリット値減少等の血液系への影響、尿細管腎症、出血性壊死等の腎臓への影響がみられた。ラットの 10 ヶ月間吸入毒性試験において 100 ppm（ガイダンス値換算: 0.44 mg/L）で尿細管腎炎等がみられた（EU-RAR (2006)、ATSDR (1998)、ACGIH (2003)、DFGOT vol. 6 (1994)）。いずれも区分 2 の範囲で影響がみられたことから、区分 2（血液系、腎臓）とした。 |
| 誤えん有害性 | データ不足のため分類できない。 |

## 12. 環境影響情報

| | |
|---|---|
| 生態毒性 | 魚類（ニジマス）：96 時間 LC50 = 20～40 mg/L (EU-RAR (2006))<br>甲殻類（オオミジンコ）：48 時間 EC50 = 67.5 mg/L (EU-RAR (2006))<br>藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata)：72 時間 NOEC = 300 mg/L (SIDS (2006))<br>水生環境有害性 短期（急性）：魚類の 96 時間 LC50 = 20～40 mg/L であることから、区分 3 とした。<br>水生環境有害性 長期（慢性）：慢性毒性データを用いた場合、藻類の 72 時間 NOEC = 300 mg/L であることから区分に該当しないとなる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性に関する適切なデータが得られていないため、魚類の 96 時間 LC50 = 20～40 mg/L から区分 3 となる。以上の結果を比較し、区分 3 とした。 |
| 残留性・分解性 | 化審法の判定：良分解性（類似化学物質の分解性との比較による判定）<br>6.5 日での DOC 分解度 > 90%との報告がある (EU-RAR (2006))。 |
| 生体蓄積性 | 魚類への生物濃縮係数（推定値）= 3.8 (EU-RAR (2006))、log Pow = 1.51 であり、生体蓄積性は低いと推定される。 |
| 土壌中の移動性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | モントリオール議定書の附属書に列記されていないため、分類できない。 |
| 他の有害影響 | 情報なし |

## 13. 廃棄上の注意

| | |
|---|---|
| 化学品（残余廃棄物） | 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。<br>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。<br>都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。<br>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

## 14. 輸送上の注意

**国際規制**

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 該当しない |
| 品名（国連輸送名） | 該当しない |
| 国連分類 | 該当しない |
| 容器等級 | 該当しない |
| 海洋汚染物質 | 該当しない |
| MARPOL 73/78 附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 有害液体物質（Y 類） |

| 国内規制 | |
|---|---|
| 陸上規制 | 消防法、道路法の規定に従う。 |
| 海上規制 | 船舶安全法の規定に従う。 |
| 航空規制 | 航空法の規定に従う。 |
| 特別の安全対策 | 移送時にイエローカードの保持が必要。<br>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。<br>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。<br>重量物を上積みしない。 |
| 緊急時応急措置指針番号 | 該当しない |

| 15. 適用法令 | |
|---|---|
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物<br>リスクアセスメント対象物<br>濃度基準値設定物質（八時間濃度基準値 20 ppm）<br>皮膚等障害化学物質等（皮膚吸収性有害物質） |
| 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 | 優先評価化学物質 |
| 消防法 | 第 4 類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（指定数量 2,000 L）危険等級Ⅲ |
| 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律 | 有害液体物質（Y 類物質） |
| 外国為替及び外国貿易法 | 輸出貿易管理令（キャッチオール規制）<br>輸入貿易管理令（輸入承認品目） |
| 特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律（バーゼル法） | 廃棄物の有害成分 |

| 16. その他の情報 | |
|---|---|
| 参考文献 | 各データ毎に記載した。<br>独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）<br>NITE GHS 分類結果（政府による GHS 分類）<br>厚生労働省 職場のあんぜんサイト GHS 対応モデルラベル・モデル SDS 情報<br>JIS Z 7252:2025、JIS Z 7253:2025 |
| 改訂履歴 | 2019 年 5 月 31 日　作成<br>2024 年 12 月 10 日　改訂（JIS Z 7252、7253:2019 対応）<br>2026 年 11 月 12 日　改訂（JIS Z 7252、7253:2025 対応、GHS 分類（水生環境有害性 長期（慢性））及び法令情報の更新） |
| 免責事項 | 本安全データシート（SDS）に記載した内容は、現時点で入手可能な資料及び情報に基づいて作成したものであり、記載内容の完全性及び正確性を保証するものではありません。また、本 SDS は今後、新たな知見や法令改正等により、予告なく内容を変更することがあります。<br>お取引先各位におかれましては、本 SDS の情報を、当該製品を安全に取扱うための参考情報としてご利用いただき、実際の取扱いにあたっては、自らの用途・使用条件・作業環境等に応じて必要な安全対策を講じるとともに、関連法令を遵守してくださいますようお願いいたします。 |

| | |
|---|---|
| | 本 SDS は製品の品質を保証するものではなく、本 SDS の記載内容に関連して生じた損害について、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。 |